

# ハーモニー

Harmony

第41号 2006年9月1日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

第14回学術集会プログラム	2
学術集会（名古屋）の企画紹介	4
日本養護教諭教育学会 2006年度総会告示	5
「選挙制」による役員を選出について	5
「養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト」からのお願い	6
新・特別企画「私の実践と研究」リレー・レポート①	
実践を理論化して教育活動へ	6
特別企画—私の県の「ここが特色」③	
岡山県学校保健会養護部会の活動	7
会員からの声「学会誌に対するさらなる期待」	7
学会誌第10巻第1号の投稿原稿募集～締め切り迫る～	8
事務局からのお知らせ	8
編集後記	8

## 日本養護教諭教育学会第14回学術集会プログラム

メインテーマ：養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める

期 日：2006年10月8日（日）12時～10月9日（月／祝日）16時30分

会 場：名古屋国際会議場

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号 TEL：052-683-7711)

〔アクセス〕＊中部国際空港→「金山」総合駅で地下鉄へ乗り換え

＊近鉄名古屋駅・JR名古屋駅→「金山」駅で地下鉄へ乗り換え

→地下鉄：名港線「日比野」駅または名城線「西高蔵」駅より徒歩5分

**10月8日（日）12：00～ 受付**

- ◇学会長基調講演（13：00～13：50）第Ⅰ会場 …………… 座長 天野敦子（前弘前大学）  
「養護教諭の実践を支える学問と養護教育学」 …………… 後藤ひとみ（愛知教育大学）
- ◇特別講演（14：00～15：20）第Ⅰ会場 …………… 座長 後藤ひとみ  
「図書館がひらく、情報探索の基礎スキル」 …………… 井上真琴（同志社大学総合情報センター）
- ◇養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト  
（最終報告）（15：30～16：10）第Ⅰ会場 …………… 座長 中安紀美子（徳島大学）  
…………… 鈴木裕子（横浜市教育委員会）他
- ◇ワークショップ（16：20～18：00）第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅳ会場 …………… 運営責任者 学術集会実行委員
- ①からだのWS：発育期のスポーツ障害…………… 横江清司（財団法人スポーツ医・科学研究所）
- ②こころのWS：軽度発達障害へのかかわり…………… 星野仁彦（福島学院大学福祉心理学科）
- ③行 動のWS：人間関係トレーニング…………… 津村俊充（南山大学心理人間学科）

**10月9日（月／祝日）9：00～ 受付**

◇一般演題（9：20～11：40）

**第Ⅰ会場**

- （9：20～10：20）…………… 座長 田嶋八千代（埼玉県立常盤高等学校）
- I-1 一人ひとりの生徒に生き方を考えさせる性指導 -中学生における性指導前後の意識の変容-  
…………… 〇真野初美（東郷町立音貝小学校）
- I-2 「性教育の二つ巴理論」に基づいた性教育の検討 …………… 〇鹿間久美子（新潟市立明鏡高等学校）
- I-3 青年期女子におけるデートDV被害の意識・実態  
-DV尺度の作成と孤独感、セルフエスティームとの関連について-  
…………… 〇長谷川江里子（魚沼市立須原小学校）他
- （10：20～11：00）…………… 座長 鈴木 薫（岡山大学教育学部附属小学校）
- I-4 健康相談活動からみた養護社会学のパラダイム …………… 〇安林奈緒美（名古屋市立大学大学院）
- I-5 養護診断開発に関する研究（第四報） …………… 〇遠藤伸子（女子栄養大学）他
- （11：00～11：40）…………… 座長 大谷尚子（茨城大学）
- I-6 養護実習における学生の指導養護教諭への共感性をめぐって …………… 〇今野洋子（浅井学園大学）
- I-7 看護大学における養護教諭1種免許取得コースの「養護実習事前指導」の在り方  
-保健教育の準備として「学習指導案」の書き方等に力点おいた取り組み-  
…………… 〇石崎トモイ（新潟青陵大学）

**第Ⅱ会場**

- （9：20～10：20）…………… 座長 古田扶三子（岩倉市立岩倉中学校）
- Ⅱ-1 協動的探究型保健学習におけるプロセス評価のあり方  
…………… 〇竹内雅子（福井大学教育地域科学部附属中学校）他

- Ⅱ-2 養護教諭が行う保健学習の実践的研究 ○澤田良子(竹原市立竹原中学校)他  
 Ⅱ-3 未成年者に対する禁煙意識調査結果の一例 ○安林幹翁(中部大学)他  
 (10:20～11:00) …………… 座長 松田芳子(熊本大学)  
 Ⅱ-4 養護教諭の問題解決に必要な視点と情報  
 -ケースメソッドを用いた健康相談活動の展開- ○竹鼻ゆかり(東京学芸大学)他  
 Ⅱ-5 養護教諭の日常的職務に関する質的研究の試み  
 -保健室登校を手がかりとして- ○松本 恵(福岡市立城南中学校)  
 (11:00～11:40) …………… 座長 森 千鶴(名古屋市教育委員会)  
 Ⅱ-6 京都市小学校における保健室来室記録に関する研究 ○江寄和子(京都市総合教育センター研究課)  
 Ⅱ-7 ピア・サポートが生徒に及ぼす成長発達効果について  
 -心理尺度による効果の検証- ○近藤充代(愛知県立豊橋工業高等学校)

### 第Ⅲ会場

- (9:20～10:20)…………… 座長 堀内久美子(名古屋学芸大学)  
 Ⅲ-1 養護教諭の専門職性と養成教育のあり方  
 -関連専門職との比較検討から養護教諭自身の意識改革を目指して考える-  
 ○鎌田尚子(女子栄養大学)  
 Ⅲ-2 東北地方に見る黎明期の養護教諭養成 ○杉浦守邦(前山形大学・蘇生会病院)他  
 Ⅲ-3 学校保健・養護教諭の活動と予算に関する研究 ○中村朋子(前茨城大学)他  
 (10:20～11:20) …………… 座長 津村直子(北海道教育大学札幌校)  
 Ⅲ-4 養護教諭特別科生の在学中における養護教諭に関する意識の変化(第2報)  
 -平成16年度生と平成17年度生の比較分析を通して- ○斉藤ふくみ(熊本大学養護教諭特別科)他  
 Ⅲ-5 養護教諭志望学生の捉える「養護」について ○竹田由美子(神奈川県立保健福祉大学)他  
 Ⅲ-6 スチューデント・インターンシップと実践的指導力の育成  
 -養護教諭専攻大学生の実践・中間報告- ○鎌田尚子(女子栄養大学)他  
 (11:20～11:50) …………… 座長 津島ひろ江(川崎医療福祉大学)

- ◇学会助成研究「養護診断開発のための基礎的・実践的研究-四肢の痛みの訴えを例に-」  
 ○岡田加奈子(千葉大学)他

### ◇ポスターセッション(10:00～12:30 掲示)

- (10:20～11:20)…………… 座長 葛西敦子(弘前大学)  
 P-1 学生の健康相談活動を高めるためのSAT(構造化連想法)の有効性 ○石田妙美(東海学園大学)他  
 P-2 中学生の友人関係と心身症状の関連についての研究 ○本田優子(熊本大学)他  
 P-3 知的障害児のトイレへの入室拒否等と学校環境づくり  
 ○西尾幸一郎(兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所)  
 (11:20～12:00)…………… 座長 河田史宝(金沢市立北鳴中学校)  
 P-4 子どもの健康問題解決を目指したアプローチ -P.D.Sシートとプレゼンテーションシートの活用を通して-  
 ○岩瀬京子(蒲郡市立形原小学校)他  
 P-5 連携に生かせる保健室来室者の記録の残し方 -パソコンソフトAngelの作成を通して-  
 ○斎藤真佐乃(神奈川県立多摩高等学校)他

- ◇ランチョンセミナー(12:00～12:50) 第Ⅰ会場 …………… 座長 福田博美(愛知教育大学)  
 「低身長と成長ホルモン」 水野晴夫(名古屋市立大学)

### ◇総会(13:00～14:00) 第Ⅱ会場

- ◇シンポジウム(14:10～16:30) 第Ⅲ会場 …………… 座長 三木とみ子(女子栄養大学)  
 テーマ:養護教諭の実践を支える「理論」と「研究」を究める -健康教育にみる専門性の検証-  
 シンポジスト:植田誠治(茨城大学教育学部)研究者の立場から  
 安藤節子(愛知県春日井市立不二小学校)養護教諭の立場から  
 八木佳子(東京都品川区立鈴ヶ森小学校)学校長の立場から

## 学術集会（名古屋）の企画紹介

学会長 後藤ひとみ

愛知県で本会の学術集会が開催されるのは2回目です。先回は第5回研究大会で1997年11月8日に天野教子実行委員長のもと愛知教育大学で行われました。この研究大会（学術集会に呼称変更したのは第6回より）は全国養護教諭教育研究会から日本養護教諭教育学会に改称して初めて開催されたものであり、抄録集はB5判からA4判に変わりました。当時のプログラムは午前中にパネルディスカッション、午後に研究発表4題と総会というシンプルなものでした。第14回学術集会は第5回から数えて10回目となることを記念し、「養護教諭という職の存在をアピールすること、日本養護教諭教育学会らしい企画を工夫すること」をコンセプトとして、過去の企画を網羅しつつ新たな運営に着手しました。メインテーマは、「養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める」です。これをふまえて、次のような企画を致しました。

特別講演は、「図書館の隠密」と自称されている井上真琴氏による「情報探索の基礎スキル」についてです。内容は司書教諭や他の方々にも有益なものですので、一人でも多くの方に養護教諭という職と日本養護教諭教育学会の存在を知っていただければと思って一般公開にしました。これは初の試みではないかと思えます。ワークショップは、実行委員である養護教諭の方々のニーズに応じて3つの柱を立て、スポーツ障害から子どもの発育を捉える「からだのWS」を横江清司氏、軽度発達障害の理解と対応につい

て学ぶ「こころのWS」を星野仁彦氏、養護教諭の人間関係づくりを体験する「行動のWS」を津村俊充氏にお願いしました。懇親会では、国指定重要無形民族文化財である「三河万歳」保存会の方々に上演していただきます。一般演題は、口演20題・ポスターセッション5題と盛況で、会場準備に嬉しい悲鳴をあげています。総会前のひとときにはランチセミナーを開きます。企業の持ち込み企画ですが、初めての試みとして設定しました。シンポジウムは、メインテーマを強調して「養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める—健康教育にみる専門性の検証—」と題しました。座長は養護教諭が行う健康教育に造詣が深い三木とみ子氏です。シンポジストは健康教育の専門家である植田誠治氏、養護教諭としての熱い情熱をお持ちであり全養連会長でもある安藤節子氏、文部科学省の「早寝・早起き・朝ごはん」プロジェクト指定校の学校長である八木佳子氏にお願いしました。

以上が年次独自の企画です。これに加えて、1日目には学会事業である「養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト」の最終報告があります。来年3月の用語集発行にむけて、会員の方々の積極的なご意見をお願い致します。また、学会助成研究「養護診断開発のための基礎的・実践的研究—四肢の痛みの訴えを例に—」も2年目の総括的な発表が期待されます。本学会は女性会員が大半であり、当日の会員外参加者も大半が女性です。このような特色をふまえて、初めて有資格者による無料の「託児」も行います。養護教諭の実践と研究に興味をお持ちの方のご参加を実行委員一同お待ちしております。

## 日本養護教諭教育学会 2006年度総会告示

理事長 後藤ひとみ

下記の日程で2006年度総会を開催します。

日時 2006年10月9日(月)

13:00～14:00

場所 名古屋国際会議場1号館3F

- 議題
1. 2005年度事業報告
  2. 2005年度決算報告
  3. 2006年度事業経過報告
  4. 2007年度事業計画
  5. 2007年度予算審議
  6. 研究助成金対象研究の選定
  7. 「日本養護教諭教育学会会則」の改正
  8. 「日本養護教諭教育学会会則実施細則」の改正
  9. 「日本養護教諭教育学会誌」投稿規定の改正
  10. その他

### 「選挙制」による役員選出について

理事長 後藤ひとみ

＜本会における役員選出＞

日本養護教諭教育学会会則及び同会則実施細則の規程に基づき、推薦委員会が選出した役員(理事及び監事)候補者をもとに総会で決定するという「推薦制」をとってきました。このような選出方法は、全国養護教諭教育研究会設立時の趣意を日本養護教諭教育学会においても継承しつつ、本会の学術的な成長を着実に積み上げていくというねらいがありました。

＜これまでの経緯＞

第Ⅰ期(1997～1999年度)や第Ⅱ期(2000～2002年度)における役員改選では職域や地域を広げる努力が行われました。しかしながら、理事会等の開催に伴う旅費が高額になって赤字財政になる年度があり、他の学会事業の充実も含めて学会運営には財政基盤が重要であることがわかりました。そこで、第Ⅲ期(2003～2005年度)は会員拡大に努力して約200名増を果たし、同時に会員名簿の管理を厳密にして年会費の納入率を上げました。会員増加と会費納入率アップによって財政基盤が安定したことから学術集会の助成金や会員への研究助成金が増額されたことはご承知のことと思います。理事会では「選挙制」による役員選出が話題にあがるようになりました。しかし、地区によって会員数に偏りがあることや広域からの旅費は高額になることから第Ⅳ期(2006～2008年度)の改選は従来通りの「推薦制」で行うこととし、会員拡大に一層努力することを前提として「選挙制」の原案を作成して次期理事会へ引き継ぐことにしました。

以上のような経緯から、第Ⅳ期理事会では、前理事会によって申し送られた理事の「選挙制」に関する原案を受けて、7月22日(土)開催の理事会で検討しました。その結果、10月9日(月)の2006年度総会において、下記のような案に基づく会則及び会則実施細則の改正案を提示し、ご審議いただく予定です。

＜役員(理事)の選出方法(案)＞

- ①北海道・東北、関東、中部、近畿、中国  
・四国・九州の5ブロックとする。

- ②選挙により、各ブロックから理事2名を選出する。
- ③理事長は、理事の互選により選出する。
- ④理事長は、地域と職域・年齢を考慮して若干名の理事を加えることができる。
- ⑤理事のうち、4名程度を常任理事とする。
- ⑥常任理事は、庶務担当、編集担当、学術（学会・研究）担当、財務担当とする。

つきましては、この案に対する会員各位のご意見を事前にいただきたく、ここにお願い申し上げます。なお、監事の選出については検討中ですので、合わせてご意見を頂ければ幸いです。ご意見は、9月30日（土）までに学会事務局までFAXまたはEメールにてお寄せ下さい。

## 「養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト」からのお願い

—用語集（仮称）の原案について—

本プロジェクトの活動は3年目を迎え、2007年3月の学会誌発刊の際には「養護教諭の専門領域に関する用語集（仮称）」を発行すべく検討を進めています。そこで、第14回学術集会（名古屋）の第1日目である10月8日（日）には最終報告を行い、会員の皆様からのご意見をいただきたいと思っています。つきましては、発表前にもご意見をいただきたく、当日配付の資料（用語ごとの英語表記、キーワード、定義、解説文を記載した用語集の原案）に先駆けて、30語の「英語表記、キーワード、定義」のみをまとめた一覧表を同封致しました。ご一読の上、忌憚

のないご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。なお、配付資料作成の都合上、ご意見は9月25日（月）必着にて学会事務局（FAX：0566-26-2491、Eメール：JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp）までお送り下さい。（プロジェクト代表）

## 新・特別企画

全国の会員から会員へ、レポートをリレーで結ぶ新企画です。第1回は北海道からスタートです。

### 「私の実践と研究」リレー・レポート①

実践を理論化して教育活動へ

高田 幸子（北海道函館中部高等学校）

高等学校に勤務し20年、三度の転勤を経験した。養護教諭は、時代に応じて求められる役割と普遍的な役割がある。振り返ると執務を着実・的確に果たすためには、学校事情や生徒の実態を踏まえるとともに様々な工夫が求められ、新たな発見・学びの連続であった。今なお執務の中で困難な状況に出くわす時、校内で余人にかえがたい専門職として拠って立つのに何が必要か自問自答してみると「理論を自分のものとして咀嚼・修得し、実践を理論化して教育活動に展開させているかどうかにある」と反省と反省をしている。

現在、次の2点について取り組んでいる。

- ①学校内において「症状があって」保健室を利用する子と利用しない子がいる—その影響因子は何か。
- ②「健康相談活動」は、「心身の健康問題」を抱える生徒の発見のチャンスであり、「応急処置」は情報源の入口である。「保健管理（心身の管理）」を強く意識し、日常的

に「体」（器質的疾患の判断）から「心」を観察・判断（見極め）し、記録する鍛錬が専門性の発揮に繋がると考える。そこで、観察記録用紙（フィジカルチェック・家庭環境・学校生活・心の状況・判断と根拠・処置対応等）の活用を試みた。勘や経験に終わらせない判断と根拠を明らかにする記録が難しく苦慮している。今後は、他者による「評価」が課題である。この観察記録用紙が従来の保健室対応記録として校内の「情報連携」の情報源にとどまらず、児童・生徒の課題の改善・解決のための「行動連携」に役立つ記録となるための方法と活用について検討したいと考えている。

### 特別企画 私の県の「ここが特色」③

#### 岡山県学校保健会養護部会の活動

鈴木 薫（岡山大学教育学部附属小学校）

養護部会の活動はどの地域においても活発でしょうが、岡山県も「一人ひとりの夢を大切に作る養護部会」をキャッチフレーズに充実した活動を展開しています。とりわけ近年の躍進の様子は、会員770分の1にすぎない私でも実感できます。では、部会の活動記から代表的なものを数点紹介してみましよう。

#### ○アドバンス研修

年間2回の研究会総会で、大学院や教育センターに長期派遣された会員が研修成果を報告します。実践を研究的にまとめ、それを論文化するということがどういうことか、身近に感じることができる機会です。

#### ○養護教諭マニュアルの改編

すでに作成されているものから、「健康診断編」「疾病予防と管理編」の改訂版が作成

されました。新法規の解説から教育的な働きかけにまで視点を広げて記載されています。

#### ○養護部会ホームページ「なごみ」

岡山県の養護教諭に関する情報や、理事会会議録を公開しています。

#### ○校種別夏期研修会

夏期休業中の2日間、企画・運営を地区が輪番で担当して、講演や研究発表・研究協議などを行います。

#### ○養護教諭情報教育研修会

養護教諭が講師を務め、一年に1回希望者にPC研修会を行っています。

このように多彩な内容を本部役員22名と地区代表47名の理事が中心になって牽引してくれています。そして、会員一人ひとりの活動をつなぎ、支え高めて行く上で重要な役割を果たしている岡山県の養護部会です。

会員からの声・・・・・・・・・・

#### 学会誌に対するさらなる期待

・・・・・・・・・・・・・・・・

岡田 加奈子（千葉大学教育学部）

このたび、本学会の理事が一新された。まずは創設以来、学会の発展に貢献してくださいましたすべての理事の方々に心から感謝の意を表したい。本学会が、年月を経るごとに飛躍的な発展を遂げてきたのは、ひとえに学会を支えてくださった理事ならびに編集委員の先生方の並々ならぬご尽力の賜物であると思う。本学会誌の質的な向上はその結果の顕著な現れである。

学会は学会誌によって評価されると言っても過言ではない。まさに、学会誌が学会の表立っての顔といってよいであろう。これまでの発展を受けて将来を展望したとき、懸念

されることがある。それは学会誌の原著論文の少なさである。

原著論文にかぎらず、論文が学会誌に掲載されるまでには、査読を受けなければならない。査読とは、学問的な価値を適切に審査することである。従って、査読者自身の問題意識や価値観によって、論文のオリジナリティを阻むことや、さらに、学問的な価値のある論文を、非本質的な欠点を指摘して原著論文から遠ざける様なことはあってはならない。オリジナリティに対して、大きく査読が阻めば、学問の発展を阻害する結果を招きかねないからである。これらは、自らが様々な学会誌の査読を担当し、査読を受け、また、他学会誌の編集委員長としての立場から感じていることである。

本学会は非常にきめ細やかな査読を行っていると思う。しかしながら、投稿される論文の質が高くなければ、いかんともしがたい。

本学会誌のさらなる発展を願い、自らも心して研鑽を積みたいと思うのである。



## 学会誌第10巻第1号の 投稿原稿募集

～締め切り迫る～

「日本養護教諭教育学会誌」第10巻第1号の原稿を募集しています。原稿の種類は、論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。

年1回発行の学会誌の投稿原稿は、年間を通して受け付けていますが、第10巻第1号の原稿の最終締め切りは、2006年9月30日(土)です。期日が迫っていますので、会員の皆様は奮ってご投稿ください。詳細につきましては、学会誌第9巻第1号に掲載の「日本養護教諭教育学会誌」投稿規定をご覧ください。ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせください。

### 事務局からのお知らせ

\* 総会に向けて会員の確認をします。

今年度会費を納入した会員が総会で議決権を持ちます。今年度まだ会費を納入されていない方は、お近くの郵便局からお振込みください。入れ違いに送金いただきました折は督促の失礼をお許しください。

\* 総会の委任状を同封しました。

総会を欠席される方は委任状の提出をお願い致します。お手数ですが、50円切手を貼ってください。9月30日までに、ご投函をお願いします。

### 編集後記

暑い夏はいかがお過ごしになられたでしょうか。研修にお出かけになられた方も多と思います。学術集會でお目にかかれますのを楽しみにしております。(F)

